



忘れ去るまで75日

夏の甲子園を制し、東北に初めて優勝旗をもたらした仙台育英高校監督の優勝インタビューが共感を呼んでいます。入学直後から新型コロナに翻弄されていた今の高校3年生について聞かれ「青春ってすごく密なのに全部ダメだと言われて、僕たち大人が過ごしてきた生活とは全く違うんです。活動にもどこかでストップがかかってしまうような苦しい中で、本当にあきらめないでやってくれた。そしてそれは全国の高校生のことでもあり、ぜひ全国の高校生に拍手してもらえたらなと思います。」と答えています。この言葉に付け加えるならば私は全国の中3生にも拍手をおくりたいと思います。

さて9月1日は防災の日、この塾でも災害伝言ダイヤルの確認、長期保存水など防災備品の点検、避難誘導マニュアルのチェックなどを行い、いざという時のために備えています。この日は関東大震災にちなんで制定されたとのことですが、また台風の襲来が多いとされる二百十日にもあたります。立春から数えて210日目のこのころは農作物にとっても大事な時期であり、そこに甚大な被害をもたらす台風に注意を促す日なのです。

ところで日数についての慣用句では「人のうわさも七十五日」もお馴染み。人々の間で一時は話題になってもしばらくすれば忘れ去ってしまうものですよということでしょうか、これは農作物を種まきしてから収穫までおよそ75日間だということに由来するという説もあります。しかし人間の記憶のメカニズムということでは案外この日数は的を射ているのかもしれませんが。それを考えると夏期講習で身につけたことを思い出す作業を2回以上繰り返さなければ入試当日には忘れてしまうことになります。その対策として、有名な忘却曲線にヒントを得て高校生が考え出し特許までとってしまった「エビングハウスフセン」という便利な文具もあるそうです。それを利用する手もありますが、今回この塾では「モノグサ」という記憶定着用のアプリを本格的に導入することにしました。誰が繰り返しどこまで覚えたかを確認し、一人ひとりを応援しますよ！